

# “大井手”でつながろう！

## 水辺を活かしたまちづくりシンポジウム

「大井手の楽校」第5回目は、「大井手」を活かしたまちづくりを考えるシンポジウムを市民会館 崇城大ホールにて開催いたしました。「水辺が変われば、まちが変わる」をテーマに、大阪の事例を参考に熊本の水辺についてディスカッションしました。

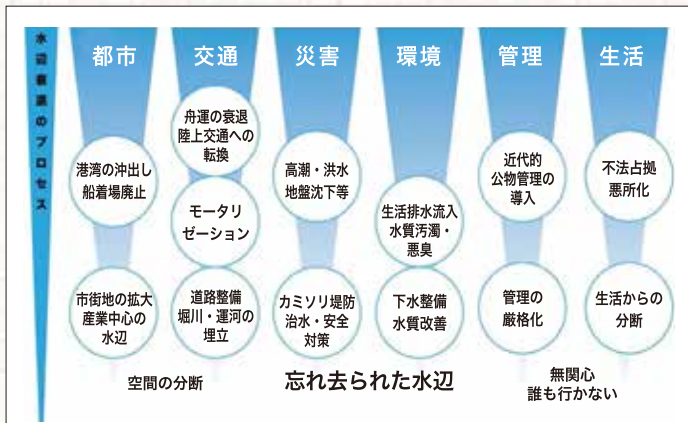
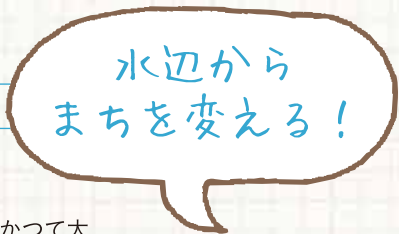
### 第1部 基調講演

嘉名光市 先生 (大阪市立大学大学院准教授)  
「水都大阪の挑戦 都市を変える水辺アクション」

### 水都成立の過程

#### かつて大阪は「水の都」だった

江戸後期の大阪の鳥瞰図では縦横に堀川が流れており、かつて大阪のまちは「生活のなかに常に水辺があった」ことが紹介されました。しかし昭和初期からその様相が変化していきます。原因は高潮や地盤沈下。また流通が舟運からトラックへ移行したことも大きな要素となり、水辺は整備され「忘れ去られた存在」となりました。そこで、かつての大阪のまちを蘇らせようと、2001年から『水都大阪の再生』を目指し、さまざまな事業や取り組みが始まったのです。



嘉名先生の講演資料より(一部加工)

- 大阪は昭和初期まで水辺が主役のまちだった。
- 水辺が忘れ去られた存在になっていた。
- 整備により、水辺が生活から分断されてしまった。
- 「忘れ去られた水都」への危機感。
- 水辺がまちをよくしてくれる、まちが変わることの気づき。



第1部基調講演の嘉名光市准教授

### 都市再生プロジェクト

#### まちづくりに「実験室はない！」

まず「水辺のまちづくり、光のまちづくり」をテーマに、最初は公共事業・土木事業を中心に進んでいきました。また水質悪化の改善や水門を上下流に設置して潮位をコントロールすることで「安全・安心な水辺」の基盤をつくりました。2008年秋に大阪府知事になった、橋本知事の提案で「イベント後も水辺を使ってもらうムーブメントづくりを」と、橋のライトアップが手がけられました。また「水辺を活用したい」という民間からの提案を、自分たちでルールをつくり、府・市・国が特例で許可することで水辺が活性化した事例を紹介。例えば、川沿いのオープンテラスである『北浜テラス』の取り組みや水辺での結婚式、ボードゲームパークなどがその一例です。



『北浜テラス』。川床のカフェテラスが水辺の風景を豊かにしている。



水辺イベントに登場する『ラバーダック』は水都大阪のマスコット。

- 安全を確保した整備で、「使える水辺」に。
- イベントが終われば再び「人気のない水辺」になってしまう危険。
- イベント後も水辺を使ってもらうムーブメントを作ろう！
- 民間のアイデアを自治体や国が応援する。
- 大きなマスタープランがあったわけではなく、毎年毎年できることを！
- まちに「実験室」はない。現場でやっていながら進めていく。